

# 一般質問

## 産業政策について

国際競争力の強化を

田中 俊行 議員

(新政みえ/旧四日市市選出)

### 問

資源の少ない日本の産業の強みは、優秀な人材や技術力であり、こうした知的資産の蓄積やニーズに適応した高付加価値製品の開発、新分野への展開等が国際競争力を強化する上で、重要課題です。



四日市コンビナート群

北勢地域は、四日市市を中心に、部材提供産業としての石油化学と自動車・電子・電気・機械などのユーザー産業が一時間距離圏に集積しており、この特色を最大限生かしながら、高度な産業構造へと転換していくことが求められています。さらには、中核的な人材を育成し、技術革新を促進していくことも必要です。その観点から、北勢地域における戦略的な産業政策について伺います。

### 答

北勢地域の多様な産業集積を生かす。かし、国際競争力の強化を目指して、産学官が連携した知識集約化を進めてまいります。

そのため、「研究開発・人材育成の拠点形成」や「高付加価値製品への展開」、「国際競争力強化のための事業環境整備」などを柱とするアクションプログラムを四日市市と協働で策定しました。

また、国に対し、製造現場とリンクした、高度部材開発を担う「人材育成・研究開発専門機関」の設置を提案しており、北勢地域での整備を、ぜひ実現させたいと考えております。

その他の質問事項  
○ 産業廃棄物問題について

他

## 三重県活性化の秘策とは？ 名阪国道のバイパスの 必要性を訴える

県民を結ぶ高規格幹線道路の建設を

青木 謙順 議員

(自民・無所属・公明議員団/旧一志郡選出)

### 問

名古屋と大阪の二大都市圏を結ぶ国道二十五号名阪国道は、国土軸である名神高速道路の代替機能を有する交通・物流の大動脈ですが、交通量の増大と走行車両の大型化による事故・渋滞の多発、また、建設から四十年以上経過したことによる老朽化といった様々な問題を抱えています。

災害時における三重県と関西圏、中勢・伊賀を結ぶ道路確保の点からも、名阪国道の代替路が必要であり、また、沿線地域活性化の起爆剤になると考えます。そこで、その必要性に対する認識はどうか、知事の所見をお聞かせします。

### 答

名阪国道の交通量はひっ迫状態であり、道路の高低差も大きく、カーブが多いことから事故、通行止めが多発しています。

このため、名阪国道の代替機能を果たす道路網を確保することは重要と考えていますが、現在、県央を東西に結ぶ高規格な幹線道路は計画されていません。

国の長期的国土づくりの指針である「国土形成計画」の策定状況も視野に入れながら、今後、必要性や可能性を検討していきたいと考えています。



その他の質問事項  
○ 一本筋の通った教育とは？

他

## 三重県民の森の活用について

周辺観光地域との連携を

石原 正敬 議員

(未来塾/旧三重郡選出)

### 問

「三重県民の森」は孤野町内にあり、一九八〇年に行われた第三十一回全国植樹祭を記念して、その跡地を県民の憩いの場、学習の場として活用するとともに、緑の遺産として次世代に引き継いでいくことを目的として整備されたものです。

この県民の森の周辺には、湯の山温泉という観光地はもとより、朝明深谷、尾高高原、鳥居道山、八風をはじめとするキャンプ場など、自然を生かした観光地があり、これら周辺観光地域との連携によって、集客が見込めると考えます。

そこで、県民の森の活用について、どのように考えているのか、ご所見をお聞かせください。

### 答

県民の森は、日常の喧噪から離れ、森林浴や散歩などにより癒しを求めることができ、旅のスタイルの多様化による、新しい観光需要に対応することができると考えています。



三重県民の森

今後は、地域関係者等との連携のもと、県民の森を自然学習の施設と位置づけ、周辺の観光資源と有機的に結びつけることにより、地域全体の観光地としての魅力向上に取り組み考えます。また、旬の素材を活用した観光コースの検討や、情報発信を行い、当地域への観光客の増加に努めてまいります。

その他の質問事項  
○ 障害者自立支援法について

他

## 三重県の農業政策の課題と進むべき三重県農業の姿について

今後の三重の農業・農政の展望は

館直人 議員

(新政みえ/旧三重郡選出)

### 問

国が発表した「経営所得安定対策等大綱」により、担い手の再編、農村が持つ多面的機能の発揮など、日本農政の大転換期が到来しようとしています。



時代の変化に耐え得る農業・農村を構築するためには、地域の営農調整や共同活動など、従来から持っている農村集落機能を回復し、地域の状況に応じた多様な農業を展開することが重要と考えます。

兼業農家が多くを占める本県の特徴を踏まえ、地域・集落の取り組みに対してどのように支援し、これからの三重県にふさわしい、三重県独自の農業・農政をどのように構築し展開しようと考えているのか、お伺いします。

### 答

本県はこれまで、ブランド化や地産地消運動の展開、経営発展への支援などの対策を進めてきましたが、兼業農家の意識の多様化により、農村社会を維持するための機能の低下が懸念されています。

このような状況に対応するため、集落の持つ人間力・地域力等に視点を置き、体制整備、人材育成、集落のビジョンづくりなど総合的に取り組み、今後とも、地域の状況に応じた多様な農業の展開と、農村の元気づくりを進めていきます。

その他の質問事項  
○ ごみゼロ社会実現プランについて

他